様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 25 日現在

機関番号：16401
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2009～2011
課題番号：21530948
研究課題名（和文）実技教科授業の日韓比較研究－実技教科の子どもの「学び」の経験とは何か－
研究課題名（英文）　The Japan-Korea comparative study of a practical skill subject lesson

研究代表者
刈谷　三郎（KARIYA　SABURO）
高知大学・教育研究部人文社会科学系・教授
研究者番号：00136368

研究成果の概要（和文）：
本研究は，音楽科，図画工作科，家庭科，体育科の「実技教科授業」について，日韓比較調査研究を通して，子どもたちの「学び」経験について明らかにすることを目的として行った。結果，日韓の子どもたちの教科観は，実技各教科で授業経験構造から多くの共通点が存在している。しかし，授業実践比較による子どもたちの授業評価から学習経験としての「学び」には相違が見られ，特に韓国の子どもたちには性差がみられることや教師の満足度との関係も日本と韓国で異なることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：
The purpose of this research is to clarify lesson of the elementary school music of Japan and South Korea, arts, home, and Physical education about children's "learning" experience. As a result, children's subject view had many common features from lesson experience structure. However, in learning, it became clear from children's assessment of teachers by their students that a difference is seen.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学・教科教育学
キーワード：実技教科授業，日韓比較，子どもの「学び」経験，実技教科カリキュラム

１．研究開始当初の背景

日本と韓国は教育課程が類似しており，特に実技系教科は類似点が多い。また子どもの様態も類似している点から，日本国内で実施した実技教科の教科横断的研究の手法を用いて，共通認識が可能な実技各教科の形成的授業評価票を活用した授業研究を行うことによって，民間交流以上の教育における授業実践交流の成果が予想される。本研究は，これまでの「実技教科における授業評価の教科横断的研究」（基盤研究(C)(2)課題番号13680317），「実技教科と子どもの「遊び」の日韓比較研究」（一般研究(C)課題番号18530718)を継続・発展させた研究となった。

２．研究の目的

本研究の目的は，教育課程が比較的類似している日本と韓国の音楽科，図画工作科，家庭科，体育科という「実技教科」の教科横断的研究として 1)実技教科各教科のカリキュラムについて，日本，韓国それぞれで整理し，各教科の共通点，特徴を明らかにし，共通した教育内容について，実技各教科の授業案を計画する。2)計画された授業案について，形成的授業評価票を活用した授業実践を行い，授業目標と学習者が感じる授業実態にどのような問題が所在するのか，実技教科間における関連性や問題性，個別性について，日韓比較をとおして解明する。3)そこで得られた結果から，日韓共通認識のもと，授業実践交流，講師交換授業実践，インターネットを活用した交換授業実践など現場レベルでの授業実践交流についても新しい国際交流の提案をすることである。

３．研究の方法

(1)韓国初等学校実系教科の授業評価票の作成

韓国の小学校5,6年生約1,500名を対象に実技各教科授業に係る50～53項目の調査を実施し，因子分析を実施し，そこから形成的授業評価票を作成した。

(2)日本韓国実技系教科授業における子どもの学び経験比較

日本韓国ともに実技各教科授業を8時間程度計画･実践し，毎時間子どもに授業評価を実施し，子どもの学びの経験分析を行った。

表1 実践授業概要

教科	国別	学年	人数	時間	教材
音楽	日本	5年生	29名(男14.女15)	5時間	表現(歌唱)
	韓国	5年生	30名(男17.女13)	8時間	表現
図画工作	日本	4年生	41名(男18.女23)	8時間	表現(造形)
	韓国	5年生	31名(男15.女16)	8時間	表現(空間)
家庭	日本	5年生	31名(男15.女16)	8時間	調理基礎
	韓国	6年生	27名(男15.女12)	8時間	生活用品作成
体育	日本	6年生	32名(男16.女16)	6時間	体ほぐし
	韓国	6年生	27名(男16.女11)	8時間	ソフトバレーボール

４．研究成果

(1) 韓国初等学校実系教科の授業評価票の作成

1)韓国小学生への調査を教科ごとに因子分析を行い，音楽科6因子（53項目），美術科7因子（52項目），実科（日本の家庭科にあたる）8因子（50項目），体育科6因子（52項目）が抽出された。また抽出された因子の中で実技４教科に共通する因子もあることが明らかになった。

表2 教科因子表

因子	音楽	美術	実科	体育
1	表現	情意	意欲	技能
2	関わり	学び方	価値	関わり
3	楽しさ	意欲	関わり	学び方
4	学び方	表現	有能感	まもる
5	まもる	関わり	学び方	体力
6	技能	まもる	まもる	めあて
7		価値	課題解決	
8			技能	

2)実技各教科で抽出された各因子は，「よい授業である」「教師の指導性」とすべての因子で有意な関係が認められた。また「よい授業である」「教師の指導性」への各因子の影響度は教科で異なることが明らかになった。

3)実技各教科の因子分析の結果から，毎時間の授業実践で有効に活用するために各因子から1～2項目ずつ選択し，実技各教科の授業評価票（案）の作成を行った。

(2)日韓実技系教科授業における子どもの学び経験比較

1)実技教科授業経験構造からみた子どもの教科観

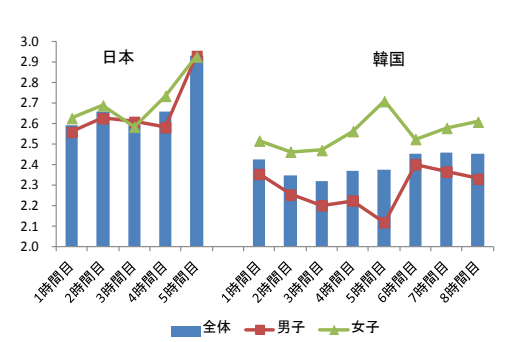
日韓の実技系教科授業の子どもの授業経験構造から，音楽で5因子（日本7,韓国6），美術（図画工作）で6因子（日本6,韓国7），実科（家庭）で4因子（日本6,韓国8），体育で3因子（日本6,韓国6）が共通した因子として認められ，子どもたちに共通した教科観が存在することを示唆している。日韓すべての教科に共通した因子として「学び方」「まもる」因子が認められ，日韓の実技系授業の子どもたちに共通して学習方法や約束事などが経験されていることが明らかになった。

2)実教科授業実践における子どもたちの「学び」の経験比較

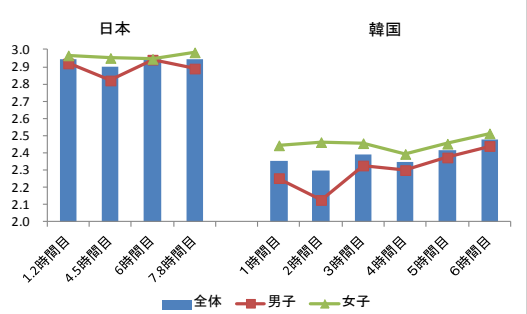
単元を通した子どもたちの授業評価について，日本の子どもたちの授業評価は，どの教科も単元進行にともなって徐々に上がっていったのに対し，韓国の子どもたちの授業評価は，どの教科も横ばいで推移している。日韓各教科の授業で，実際に子どもたちが学びや経験に相違がみられる。

日本の子どもたちは，単元進行に伴って学習内容を認識し，単元目標の達成に向けて徐々に理解や興味が高まっていく学習をしていると考えられる。一方，韓国の子どもたちは，1時間1時間の授業で学習が完結し，授業計画全体のつながりや授業全体の目標達

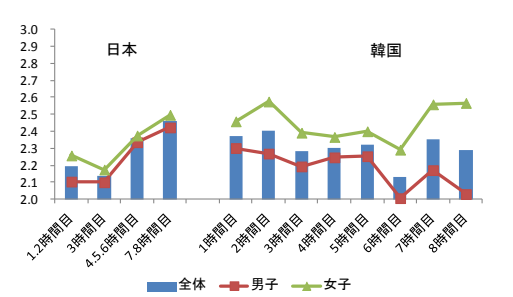
成に向けた学習として認識されておらず，日韓で単元としての授業計画の様相が異なることが明らかになった。



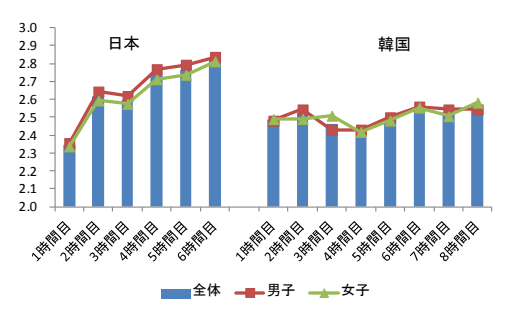
<図1> 音楽授業評価比較



<図2> 美術授業評価比較



<図3> 家庭科(実科)授業評価比較

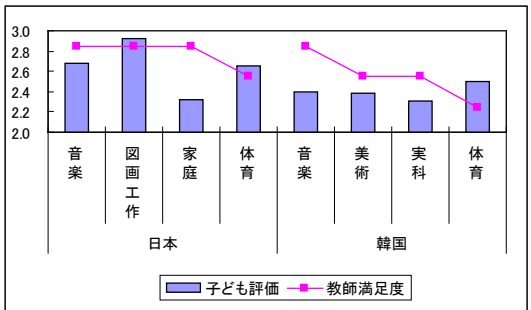


<図4> 体育授業評価比較

また子どもの授業評価による性差について，日本の子どもたちの授業評価からは各教科とも性差はあまりみられなかったが，韓国の子どもたちの授業評価では美術の前半や体育を除いた音楽，実科，美術の後半で性差がみられた。これは教科特性とともに実技教科の学習形態も関係していると考えられる。日本，韓国ともに各実技教科の学習は，男女共習であるが，授業場面では日本は男女混合，韓国は男女別々のグループで学習されていることの影響や学習内容による興味の差異などジェンダー観の相違が日韓で見られる。

3）子どもの授業評価と教師の満足度の関係

教師の満足度と子どもの授業評価が一致することは重要であり，今回の実践授業の子どもによる授業評価（単元平均）と教師の満足度（割合を 3 点法に換算）の関係（<図 5>参照）を検討したところ，教科として体育は子どもの授業評価と教師の満足度の関係にずれが生じにくい教科であることが明らかになり，国別として，日本は子どもの授業評価と教師の満足度が概ね一致しているが，韓国は子どもの授業評価と教師の満足度にずれが認められた。



<図5>子どもの授業評価と教師の満足度の関係

(3) 日韓国際シンポジウム

日韓実技教科授業実践の結果分析について，日韓の研究者によるシンポジウム（「日韓国際シンポジウム」2012.02.03）を開催し，日韓実技教科授業の特徴や実技教科の関連性，個別性などについて討議を行った。さらに韓国・春川教育大学を訪問し，近年の韓国の教育事情について情報収集を行った。これまでの日韓教育比較研究についての活動や成果についてウェブページを日本語と韓国語で作成し，公表している。
（http://nikkankyokakyouiku.info）

5．主な発表論文等

（研究代表者，研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

①宮本隆信，刈谷三郎，上野行一，小島郷子，笹野恵理子，実技系教科授業における子どもの学びの経験-日本韓国の小学校授業比較を通して-，한국 일본 교육학연구，査読有，17-1，2012，投稿中（掲載確定）

②笹野恵理子，子どもの学校音楽カリキュラム経験の内容構造分析―日韓における質問紙調査の分析を通して―，カリキュラム研究，査読有，21 号，2012，印刷中

③笹野恵理子,野垣内菜穂,高校生の部活動における音楽活動の形成過程―高等学校軽音楽部のエスノグラフィーを通して学校音楽教育研究,査読有,16,2012,印刷中
④Eriko SASANO,高校生の部活動における音楽活動の形成過程―高等学校軽音楽部のエスノグラフィーを通してー,査読有,The Prospect of Dance Studies and Career Research,2012,印刷中
⑤笹野恵理子,学校音楽はどう経験されるか,初等教育資料,査読なし,880号,2011,pp68-71
⑥宮本隆信,刈谷三郎,육조영,上野行一,小島郷子,笹野恵理子,주성범,한국 초등학교실기계 교과수업의 수업 평가 표작성의 시도-아동에 의한 교과수업 조사의 인자분석-,査読有,한국 스포츠 리서치,2011,22-2,pp3-10

〔学会発表〕(計4件)
①笹野恵理子,日韓の子どもの学校音楽カリキュラム経験と学校音楽文化 ―制度化されたカリキュラムはどう経験されるか―,日本教科教育学会第37回全国大会,2011.11.12,沖縄大学
②Eriko SASANO, The Possibilities of Art Management Education in Higher Education : from the viewpoint of music education ―Expansion of the Labor Market and Construction of the Society through Art Management Education ―, The 2nd International Dance Symposium 2011, 2011.10.06, Korea National Sport Univ. (Seoul, South Korea)
③笹野恵理子,音楽教育研究において潜在的カリキュラム研究とは何か(7) ―学校音楽を「教える」ことと「学ぶ」ことの諸相―,日本音楽教育学会第42回大会,2011.10.22,奈良教育大学
④笹野恵理子,学校音楽はどう経験されるか―生きられる学校音楽カリキュラム―,音楽学習学会第7回大会,2011.08.29,関西学院大学

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕
○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕
ホームページ等
http://nikkankyokakyouiku.info

6. 研究組織
(1)研究代表者
刈谷 三郎(KARIYA SABURO)
高知大学・教育研究部人文社会科学系・教授
研究者番号:00136368

(2)研究分担者
上野 行一(UENO KOICHI)
帝京科学大学・こども学部・児童教育学科教授
研究者番号:40284426

小島 郷子(KOJIMA KYOKO)
高知大学・教育研究部人文社会科学系・教授
研究者番号:20225428

笹野 恵理子(SASANO ERIKO)
立命館大学・産業社会学部・准教授
研究者番号:70260693

宮本 隆信(MIYAMOTO TAKANOBU)
高知大学・教育学部・非常勤講師
研究者番号:20534176

(3)連携研究者
なし